

教育環境の充実強化を図る

統合「大屋小学校」建設に着手

大屋地域の4小学校（口大屋小学校、大屋小学校、南谷小学校、西谷小学校）を統合してできる大屋小学校の建設工事がこのほど始まり、平成18年4月1日の開校に向けて建設

を進めます。

新校舎は、現在の大屋小学校の敷地を一部拡張して建設。校舎棟とラウンジ棟からなり、北側の県道養父波賀線沿いに建設されます。校舎棟は鉄筋コンクリート2階

統合「大屋小学校」完成予想図



建て、延べ床面積が3863平方メートルで、普通教室、コンピュータ室、図書室、図工室、家庭科室、多目的ホールなどがあります。中でも多目的ホールは、1階が交流ホール、2階が音楽室となっており、全校児童が一同に授業などを受けられるのが特徴です。ラウンジ棟は、鉄筋コンクリート1階建て、延べ床面積が342平方メートルで、全校児童と一緒に給食を食べることが出来ます。

また、屋内体育館は鉄筋コンクリート1階建て、延べ床面積が1110平方メートルで、学校の地域開放に向けて地域交流室やミーティング室を備えています。

このほか、プールやグラウンドの整備を行い、総事業費は約17億円となります。

便利で頼れる地域の拠点に

大屋地域局舎建設始まる

大屋地域の拠点施設となる大屋地域局舎の建設工事がこのほど始まりました。

現在の局舎は、昭和37年に建築された木造の庁舎のため老朽化が著しく、合併前の旧大屋町のときから建設が計画されていたものです。

新局舎は、現局舎北側の県道養父波賀線沿いに建築されます。鉄筋コンクリート2階建て、延べ床面積1751平方メートルで、事務室、会議室、上下水道監視室などの行政スペースのほか、観光案内所、交流ラウンジ、図書室といった多目的スペースを備えているのが特徴です。災害時には、防災拠点施設としての機能も担います。

大屋地域局舎新庁舎 完成予想図



また、地域局舎の周辺に商工会、森林組合、たじま農協、但馬銀行を集積させ、一帯を地域の中心拠点ゾーンとして整備し、利便性の向上を図ります。

現局舎は、新局舎の完成後に取り壊し、駐車場として整備します。新局舎の建築と周辺整備の総事業費は約8億円で、来年9月末の完成を目指しています。